職人の皆さん。お客さまの語る音を職 人の言葉(形や寸法)に翻訳(理解)

プロの演奏家に評価される 音づくりの技術力

三味線作りはまずお客さまの注文 に合わせて、韓は棹師、胴は胴師と いった専門職人にパーツを発注し、最 後にそれらを三味線の形に仕上げて いきます。芝﨑勇生代表取締役のお 父さん、芝﨑勇二さんはこの分野で 東京都優秀技能者(東京マイスター) の認定を受けています。

亀屋邦楽器の強みはプロにも評価 される音づくり。目標はお客さまの 理想とする音を作ること。特にプロの 演奏家の方からの音の注文は非常に 厳しいものだそうです。職人は音の イメージを三味線の形や寸法に翻訳 (理解)して楽器に仕上げていきま す。一番大事なのは皮の張りで、お客 さまの音の好みに応じて皮を選んで 張り上げます。最初の一音で評価が 決まってしまうので、完成した三味線 の音色を聞いてもらう瞬間はものす ごく緊張するそうです。

芝﨑代表取締役のこだわりは、メイ ドイン亀屋の品質を維持していくこ と。その上で各職人が工夫を加えて より良い楽器を作ることです。

有限会社亀屋邦楽器

www.e-kameva.com

代表者 芝﨑 勇生

所在地 世田谷区豪徳寺2-30-10 設立 昭和42年(1967年)

三味線・琴・三線・和胡弓の修 主な事業

理、販売

☎03-3429-8389 連絡先



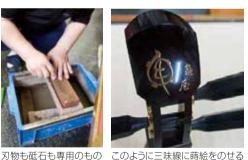


ここがすごい!! 🖒 破いて、破いて、身体で覚える

音づくりの要、皮張りは難しい技術です。パンパンに張れば強い音になり、静か な音が欲しければそのように張ります。張り過ぎれば破れて、破れると怖くなって 張りがゆるんでしまう。しかも皮は天然物なので張り加減は一定ではありません。 若い職人は、何度も皮を破きながら、その加減を身体で覚えるしかないそうです。

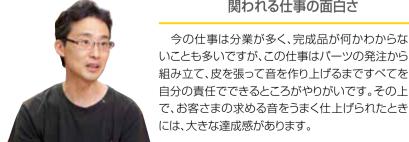


は売っていないので、ぜ こともできます んぶ自分で作る





東京マイスター 芝﨑勇二さん



組み立て、皮を張って音を作り上げるまですべてを 自分の責任でできるところがやりがいです。そのト で、お客さまの求める音をうまく仕上げられたとき

関われる仕事の面白さ

今の仕事は分業が多く、完成品が何かわからな

には、大きな達成感があります。

VOICE ♥ 最初から最後まで

芝﨑勇生代表取締役